生命理工学院　生命理工学コース・ライフエンジニアリングコース

「生命倫理特論」 遠隔配信

生命科学技術が目覚ましい発展に伴い、遺伝子診断、遺伝子治療、生命維持、ES細胞やiPS細胞の活用など、問題が多数生じている。いくつかのトピックを選び、具体例を示しながら解説し、考え方を深め、対応の仕方を学ぶ。

第一日目：　2019年10月　3日（木）5-8限 13:20-16:35
第二日目：　2019年10月 24日（木）5-8限 13:20-16:35

すずかけB棟B221講義室（遠隔配信：大岡山南2号館S222講義室受信）

増井 徹 氏

慶應義塾大学医学部　臨床遺伝学センター　特別招聘教授

「ヒトゲノム情報の利用と倫理的課題」

現在ヒトゲノム情報の利用は、医学・生物学研究のみならず、医療での応用がすでに始まっている。研究や医療の場を離れ、産業応用や、悪用されるといった動きもある。このように人の体を離れて流通するゲノム情報の性質について考察する。さらに、ゲノム情報を利用することの意味について解説し、いくつかの事例について検討し、討論を行う。

第三日目：　2019年11月28日（木）5-8限 13:20-16:35

すずかけB棟B221講義室（遠隔配信：大岡山南2号館S223講義室受信）

鈴木 睦昭 氏

国立遺伝学研究所　知財室室長

「遺伝資源・生物多様性の利用と保全」

生物多様性のもたらす遺伝資源、すなわち有用な遺伝子を持つ動植物や微生物の利用は、大きな利益をもたらす。資源提供国と利用国間での利益配分の不公平、生物多様性の危機といった、重要な問題をもたらしている。遺伝資源に関する解説を行い、問題点を検討し、討論を行う。

遠隔配信講義室変更：S222 → S223　（B221は変更無し）

●各回のみの聴講者も参加可能です。

≪担当教員≫　徳永　万喜洋